

『あなたの神である主を試してはならない。』

マタイによる福音書 第4章7節

◎ 10月の予定

- 2日(土) 県総合体育大会陸上競技の部
(三ツ沢陸上競技場)
- 9日(土) 中郡総合体育大会駅伝の部
(太平洋岸自転車道)
- 12日(火) 校内研修会
- 15日(金) 中学校教科テスト期間 15日まで
教務委員会
- 22日(金) 小学校入学検査① 23日
自宅学習日(小)、教職員協議会
- 25日(月) 理事会、評議員会
- 27日(水) 修学旅行(中) 29日
- 28日(木) 修学旅行(小) 29日
- ◎ の予定
- 5日(金) 聖書教室、
- 9日(火) 体験学習(転入) 11日
- 12日(金) 内部進学者者査 13日
- 13日(土) 関東地区私小教員研修会
(オンライン)

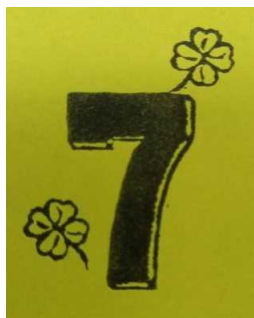


創立記念礼拝

9/17



みしるしの
スタンプ



「7」

聖書の中の象徴的な数字として「7」があります。これは3と4を合わせたものです。3とは父・子・聖霊という三位一体の「神様」を表します。そして4は四大元素や四方位など神様が創られた「自然(世界)」を表しています。その二つが合わさった数こそが7であり、完全な完成された数とされています。このような数字にまつわる意味を踏まえて聖書を読むと、理解も深まりますし、また新たな発見につながるかもしれませんね。

文・スタンプ制作 聖書科 咲間教諭

スタンプデザイン 赤田教諭

◎ 今月の行事から

【中学校教科テスト】

10月12日(火) 15日(金)

延期されていた中学校の教科テストが、通常の授業時間内で行われます。緊急事態宣言のためにいつも通りとはいかない状況の中でも、集中して学ぼうとする生徒の姿が見られます。全員がベストを尽くせるように願っています。

【修学旅行】

小学校10月28日(木) 29日(金)
中学校10月27日(水) 29日(金)

小学校は、一泊二日で京都に出かけます。現地に到着後は貸し切りバスを利用し、感染症対策を徹底して清水寺や二条城を見学の予定です。

中学校は埼玉・群馬方面に二泊三日で出かけます。旅行中は全て貸し切りバスを利用します。小学校と同じく感染症対策を徹底し、埼玉の「原爆の図 丸木美術館」の見学から始まり、世界遺産である群馬の富岡製糸場の見学等を予定しています。

このような状況下でも修学旅行を実施できることに感謝しつつ、今しかできない貴重な学びと体験が、児童・生徒それぞれにとって、かけがえのない思い出になることを祈っています。

【秋の遠足】

小学校・中学校ともに10月下旬に可能な範囲で実施予定です。

学校説明会

学園長 小川 正夫

この秋の学校説明会は新型コロナウイルスの感染防止を考え、ご希望のあった六八件のご家庭とオンラインで繋げ、お話をさせていただきました。次のような内容でした。

皆さんこんにちは、校長の小川正夫と申します。聖ステパノ学園に心を向けてくださりありがとうございます。今、私がお話させて頂いているこの場所は、七〇年程前、聖ステパノ学園がスタートした時の、一番古い建物である礼拝堂です。ここから学校が始まりました。今でも大切に使用しております。

さて、皆さんは毎日天気予報をご覧になると思います。テレビの画面には日本列島が映りますが、日本列島、本州の中央、太平洋に面して伊豆半島がありその右側に弧を描く様に相模湾があり、相模湾沿岸の中央あたりにあります。大磯港があります。

大磯港から陸に向かって見上げると、すぐ目の前に海拔二一〇メートルの豊かな緑に覆われた丘があります。

数え切れない程の大きな樹、小さな木に覆われた緑の森の中、公共の交通機関では東海道線大磯駅前一分のところに、私たちの学校があります。校舎からはすぐ目の前に相模湾の大海原が広がり、道の向こう、遠くには美しい富士山の姿があります。

学校は一年生一学級、クラスの定員は二十名、小学校一年生から中学校三年生までの一貫教育で、基本にキリスト教の精神を置いている大きな自然の中の小さな学校です。

何時も山と海からの新鮮な空気が絶えず入れ替わり、健康的な静かな環境に恵まれますし、数え切れない木の葉は、キャンパスの空気をきれいにしてくれます。

聖ステパノ学園は私立の学校ですが、学校の教職員が子どもたちを選ぶのではなく、子どもたちが、自分たちの成長に必要な人として私たちが子どもたちに選ばれているのだと自覚しています。

教職員の誰もがキリスト教の精神を心において、子どもたち一人ひとりに目をとめて、自分の兄弟姉妹、家族のように接して大切に支援しています。

教職員も児童生徒も、隣の人を、自分のことのように思いやれる心を大切にしています。ですから大磯の町では、「優しい心を育む、聖ステパノ学園」という言葉でよく知られています。幼い子はこの学校を「お祈りの学校」、「神様の学校」とよんでくれます。

きっと皆さんも、お子さんを、この学校に入れてよかったと思ってくださいる学校です。新しい春、皆さんにお目にかかれる日を楽しみにお待ちしております。ありがとうございます。

*

新型コロナウイルスの流行によって、学校を含む社会は感染症対策について、大きな変化を求められることとなりました。学校は、これまで以上の細かく具体的な感染症対策の指針が国から通達され、それをベースに各学校の実情と神奈川県における流行に応じた対策を講じてきました。

9月末現在、新型コロナウイルスの新規感染者数は全国的に減少傾向にあります。子どもたち、教職員の健康管理には油断せず緊張をもって取り組んでいます。専門家の中には、昨年は新型コロナウイルス以外の感染症はあまり見られなかったものの、今年は昨年とは異なり、インフルエンザなどの秋から冬にかけて見られる感染症が流行するのではないかと予測する向きもあります。

学校の中で、一つ一つの病気を特定し経過をみていくことはできませんが、感染症対策はスペイン風邪が流行した百年前から変わることはないと言われており、昨年二月から続けられてきた手洗い・正しいマスクの着用・三密を避ける活動を中心とした対策は、子どもたちも身につけていることを実感しています。これからも、折に触れ子どもたちと自分たちの健康を守りながら、学校生活を送ることを確認していきたいと考えています。

新型コロナウイルスはもう二年になろうかというこの時期でもいまだ猛威を振るい、大勢の方が困難の中におられます。私たちは肉眼で見る事ができない小さなウイルスによって大きな転換を求められました。私たちは自身の存在と、人間のつくり上げてきたものの脆さを認めなければなりません。そして自然界に対して謙虚であるようにと呼び戻されている思いすら抱かれます。

新しい生活様式の一つとして、リモート授業（オンライン授業）が広まりました。学校としては児童生徒の学びを保障するために一律に提供できるものを整えておかなければなりません。本学園でも校内研修会を経て、オンラインで授業ができるように先生方にご尽力いただきました。

かねてより、私たちは校長から教員は生涯学び続けなければならない、学ぶことをやめることは教員をやめることを意味すると教えていただいています。とても厳しい言葉ですが、真摯に受け止めて日々の務めを果たしていかねければなりません。学園の方針に沿ったより良い教育ができるように一人ひとりが研鑽を積んでいます。十数年前からインクルーシブ教育に注目が集まり、本学園もそれを掲げて取り組んでいます。マニユアル的な正解はなく試行錯誤の連続です。実際のところ、他の各学校でも置かれている事情によって取り組みは様々なようです。

さて、その「インクルーシブ教育」が広く認知されることで、影が薄くなってしまっているのが「レジュリエンス教育」です。本学園が標榜しているものの中で、どれが一番という事はないですが、この「レジュリエンス」を見落とさないようにしたいと考えています。

かつて映画のヒットで「ありのままの……」というフレーズが一世を風靡したことがありました。私自身もその言葉にとても惹きつけられました。ある記事に出会ってから少し印象が変わりました。かいつまんで書くと、「ありのままの……」というフレーズは、それを発したヒロインが長年隠し抑圧してきた自分自身を表現し、本来の姿を取り戻して歩んでいくという決意を表したものだということです。彼女は両親を失い、周りから手のひらを返され、孤立無援になった状態で歌ったのでした。その意志の力強さが私たちの心を揺さぶったのでしよう。背景を整理したうえで劇中歌に再び目を向けると、歌詞の深みが増してきます。では、私たちはどのような視点でこの言葉を受け止めていたのでしょうか。子どもたちは唯一無二の存在です。その存在を「ありのまま」として、もちろん受け入れます。しかし、人は正負の側面を持つ存在です。負の行動を起こしたときに、私たちは果たして「ありのまま」だからとすませられるのでしょうか。この言葉の指し示す範囲を慎重に見極めなければなりません。

重に見極めなければなりません。

インクルーシブ教育は素晴らしい理念ですが一つの手法にすぎません。ここがゴールではなく、この教育方法を通して子どもたちをどのように育てていくかが本題なのです。彼らが社会に出たとき、周りの人々がすべて好意的に接してくれるわけはありません。何も言わなくても、いつも気持ちを汲んでくれるわけでもありません。また努力した分だけ成果・評価が伴う保証もありません。そのような社会を生き抜いていくために必要な力を養うことが大切です。家族以外の他者との生活はとても重要で、リモート授業だけではカバーしきれない領域です。思い通りにないことも経験し、彼らがタフでしなやかな心を持つことができるようレジュリエンスの視点が重要と考えます。

一方でインクルーシブの考え方も必要です。昨今叫ばれている多様性について言えば、個々の価値観で仲間を作り、分断し批判しあうネガティブな側面がありますし、更に子どもたちがいたずらに他者と自分を比較して、落ち込んだり優越感に浸ったりすることも危惧されます。このような課題に対して、お互いを認め受け入れあう姿勢を養わなければなりません。

一見すると相反するようにみえる二つの考え方が、これらがより深いところで結びつき、子どもたちへの教育につながっていくよう努めてまいります。

神様はどの子も愛しておられる

教諭 上戸 基夫

二〇二一年八月二十三日、キリスト教学校教育同盟「学内教職員研修会講師」の任を頂き、高知県清和女子中高等学校の教職員の皆様と交わりの時を持つことができました。当初は直接伺う予定でしたが、新型コロナウイルス禍ということもあり、急遽 Zoom を使用しての研修となりました。

研修の内容は、以前、キリスト教学校教育同盟の研修会でステパノが発表した「神様はどの子も愛しておられる」をもとに、ステパノ学園が子ども達にどの様に関わりをもっているのか、そしてどうして学園がその様な思いに至ったのかを、創立の経緯と共に話させていただきました。その一部分を、ここに書かせていただき、学園の取り組みとしてお伝えできればと考えています。

「海水浴場発祥の地」大磯。その駅前に見える小高い緑の山。そこが私達のステパノ学園です。各学年一学級、定員二十名、そんな小さな学校の取り組みです。様々な子ども達を受け入れているステパノ学園。子ども達が住んでいる場所も様々です。更に、学園の創設者澤田美喜が作った、児童養護施設エリザベスサンダースホームの児童生徒も通っています。まさに多様な子ども達が通う学園なのです。

学園の子ども達がどの様な関わりを持って生活しているのでしょうか。上級生が下級生の面倒をみます。腰をかがめ、目線を合わせて低学年に声をかけます。他の学校でも同じような様子が見られると思いますが、ステパノが特にお伝えしたいのは、お世話をしている上級生も、「支援が必要な子ども達」が含まれているということです。彼らは言います。「自分もそうしてきてもらったから」。支援が必要な子も、そうでない子どもも全て、「誰かに支えてもらった経験と、誰かを支えた経験」をもつて生活しているのです。

創立者澤田美喜がことあるごとにチャペルで祈っていたように、学園は祈りに支えられています。礼拝で使用する式文について、こんな日記がありました。

長い間使っていた式文を新しいものに交換して、古いものを持ち帰りました。古いものをどうしようかと考え、どうしても捨てるのはもったいないので、夜一人でその式文を使って祈りをしました。とても落ち着きました。

子ども達の中に祈りが自然と入り込んでいる素敵な日記でした。

ステパノ学園の教員は、目の前の子ども達が想像もできないような「成長」を知っています。強烈なインパクトを与える子、支援の必要な子が集まることで、個人の成長だけではなく、クラスとして、最後には学校として素晴らしい成長を見せてくれる。だからこ

そ、ステパノならではの教育が大切だと考えています。加えて自分の力を大きくし、傷ついた自分を乗り越えるレジリエンスの教育。結果だけを追い求めず、プロセスを大切にしたい。「必ず成長する」という思いと、それを待つ「忍耐」という考え方があります。そして、全ての根底には、子ども同士だけではなく、教員も「お互いを認めあう環境」が土台にあります。それこそが、ステパノが行う最大の教育であり、支援であるといえます。

そこには、創設者澤田美喜が、誰も手を差し伸べなかった戦争混血児を受け入れ、時代の変遷と共に学園に心を向けてくれる子ども達のみならず、虐待で苦しむ子、両親と暮らせない子、支援が必要な子など、多様化する状況を受け入れ、そして「人に与える幸福こそが最大の幸福」という想いと、それを支える「キリスト教の精神」が流れているのです。

学園は、この教育で満足はしていません。これからは、どの様な児童生徒でも、自分から関わりを持ち、相手からも頼られる。「個の指導」と「集団の指導」を児童生徒と教職員で作り上げていく。難しいチャレンジですが、日々研鑽を重ね、歩みを進めていきたいと考えています。

研修会を通じ、清和女子中高等学校の皆様から大変貴重なご意見や感想を頂くことができました。加えて、私達の実践をお伝えすればするほど、私達自身の教育を見直す実り多き大切な時間となりました。

自分にとっての「教えること」

教諭 井手 隆太

教職十年の節目の年に、ご縁があり、ステパノ学園小学校にお迎えいただき、うれしい気持ちでいっぱいです。

いただいたお役目は、小学校一年生の副担任です。毎日、「え！」と驚くことばかりですが、学校に向かう足取りは十年で一番軽いです。

去年の前任校では、一、二年の図工を担当していました。図工という教科も相まって、「上手にできたよ」と作品を見せてくれたり、「できないから手伝ってください」と呼ばれたりして、黒板の前に立って話している時間よりも、子どもたちの近くにいる時間が長くなりました。そこで、気がついたことがあります。子どもたちの、「うーん」「よしっ」。

子どもたちの、ひとり言のような「つぶやき」のような声がたくさん聞こえてきました。今そんな声を聞き漏らすことがないよう、近くにいる少しでも私がいてよかったと、子どもたちに思ってもらえるようにしたいです。

大村はま先生の『教えること』という本に、

「小学生のうちに鉛筆を正しく持てるよう、手を取りあって教えたいものです」と書いてあるのを読んで、当時六年生の一人に、少し手を添えながら、「こういう風に鉛筆を持つと疲れないよ」と教えたことがありました。す

ると、「鉛筆の持ち方なんて六年生になってまで言うの、井手先生だけだよ！」と言われましたが、特に嫌がることなく、時々持ち方を直す姿を見て、これが教師の役目だと思うようになりました。

ステパノ小に来てから、廊下ですれ違った中学年の子の校章が襟の外に出ていたので、直してあげると、「ありがとうございます」という気持ちの良いお礼が返ってきました。

毎日、一年生の誰かの校章を直しているの、つい手が伸びたものですが、こんな「ちよつと」に気が付いて、さっと手を差し伸べられるようになりました。

素敵な学校

教諭 林 健太郎

九月よりステパノ学園小学校の教員に加わらせて頂いております、林健太郎と申します。十年以上教員生活を送ってまいりましたが、この度ご縁があつて二年生の副担任をさせて頂くことになりました。

初めて大磯の駅を降り潮風と山の緑を感じてステパノ学園にやってきた時に、「なんて素敵な学校なんだ。」と思いました。私は今まで色々な学校で教鞭を取ってまいりましたし、研修会などで多くの学校にお邪魔させて頂きました。どの学校も個性があり、魅力的だと感じましたが、ステパノ学園は其中でも、

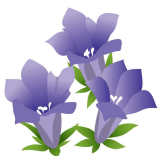
最も素敵な学校だと感じました。

子どもたちや、他の先生方にはまだお会いする前でしたが、きっと教育内容も素晴らしい学校に違いないと思いました。小川校長先生とお話をさせて頂き、自分の直感を信じて、この学校で教員として働こうと決心しました。新学期が始まる時には緊張もしましたし、正直不安もありました。しかし、初日から子どもたちと接している内にこの学校にきて良かったと思うことができました。この学校で働く機会をお与え下さった神様に心から感謝しております。

ステパノ学園は、今まで私が経験してきた学校と色々なところが違うと思いますし、わからないことや不安なことはまだまだありますが、同僚の先生方や保護者の方々のご協力のおかげで、毎日楽しく子どもたちと過ごすことが出来ています。

「神様は、私たちが望んだものよりも良いものを与えて下さる。」この言葉を信じて、一生懸命に一人ひとりの子どもたちに向き合い、共に祈り、教育を行っていきたいと思っています。その中で、子どもたちが日々どのように成長していくかを毎日とても楽しみにしております。

至らないところも多々あると思いますが、精一杯努めて参りますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



「小学校」

小4 国語 本は友達 事実にもとづいて書かれた本を読もう

教科書で、アフガニスタンの子ども達にランドセルを送る活動を紹介した『ランドセルは海をこえて』を読みまし。その後、ノンフィクションの作品を読み、その本を紹介するPOPをつくりました。



小6 国語 読書感想文

夏休みに、自分で選んだ本の感想文より、『ナイチンゲール』の感想文を抜粋です。

『ナイチンゲール』を読んで

一八二〇年生まれのナイチンゲールは、高貴な家の中で、旅の途中、イタリアで生まれました。さまざまな教育を受けたナイチンゲールの将来の夢は看護師でした。昔は看護師の身分が低く、親に反対されましたが、強い熱意で、30才で働き始めました。

昔の病院は不衛生で、虫やネズミがいましました。まずは清潔な環境を作り、ベッドとベッドとの間を1.5m開けて、ベッド一つに対して窓を一つ作りました。仕事の効率化を図るため、グラフに分析したり、ナースコールや看護覚え書きを作りました。クリミヤ戦争では、戦地でたくさんの負傷者の看護をしました。

看護師として現場で働いたのはわずか3年で、病気になってベッドで過ごすことになりました。病気でベッドの上でも何かできることはないか考え、看護師育成に生涯、力をそそぎました。

ナイチンゲールは、頭がよくて、正義感があり、優しく、自分のお金を使ってまで人を救うことが素晴らしいと思いました。私もナイチンゲールみたいな看護師になりたいです。

(小6 FC)

【中学校】一学年一クラスの本校では、入学から卒業まで同じメンバーで毎日の学校生活を送ります。自ずと結びつきも強くなるようです。各学年の代表委員の目に映る、クラスの様子です。

【中学一年生】



私達のクラスは、いい所が二つあります。一つ目は、優しい人が多い所です。一人ひとりが思いやりを持っているため、何事に対しても皆で協力できるクラスだと日常生活の中で感じます。たとえば、物を運ぶのを手伝ってくれたり、教科書を忘れた時に、見せてくれたりします。また、掃除の時は、自分の担当の所だけでなく、周りの人達の掃除を手伝いに行く人が多い所に、人を思いやることのできるクラスだと思います。

二つ目は、クラスが明るい所です。男女関係なく話したり、遊んだりする仲の良さが、明るいクラスを作っていると思います。新しく転入した人でも、すぐ仲良くできると思います。

逆に、クラスで直していききたい事は、時々授業中に騒ぎすぎてしまう所です。騒ぎすぎでしまう人がいるので、真剣に授業に取り組んでいる人にとって、迷惑になってしまっている事があります。だから、一人ひとりが周りの事を考えることができれば、皆がいい気持ちで授業に取り組めると思います。

今後より良いクラスにするために、代表委員として、頑張っていきたいと思います。

【中学二年生】



中学二年生は、騒がしくにぎやかなクラスです。それぞれ一人ひとりが、性格も得意分野も物のとらえ方も考え方も違って、個性豊かです。でも、一人ひとりが違いすぎて、ケンカが起ることも多く、まとめるのが大変な時がけっこうあります。でも、その度に、相手の気持ちを考えられるようになっていきます。昨年と比べて、皆がどんどん成長していきます。中一がきて、後輩ができたからなのか、それとも自分たちの意志で変わりたいと思ったのか、よく分かりません。ですが、全員、友達を思う気持ちが強いのは間違いなく一緒です。

これから、このステパノの中で過ごせる時間も限界があります。その限界の中で、相手の意見を尊重し合い、相手のことをどこまで知れるか、どこまで考えられるかは、先のことなのでまだ分かりません。お互いがケンカした時に、ちゃんと向き合い、どうして怒ってしまったんだろうと考えて、それを相手に言えるかと本当はいいのですが、それが難しい人もいるので、そこが今のクラスに足りないところなので、成長していきたいです。これから中二は、勉強やいろいろなことにチャレンジし、頑張っていきたいと思っています。

【中学三年生】



中三のクラスの人達は、とても気遣いがで

きて、思いやりのある人たちだと思います。みんな元気な元気で明るくて、優しいです。みんなの前だと、授業中の発言などは少なくなったり、シャイなところがある人も多いですが、それも、一人ひとりの個性だと思います。授業の時と、それ以外の生活のところでのみんなはギャップがあります。先生や他のクラスの人知らない一面や、悩みなどもあります。でも、本当に仲間思いのクラスだと思います。

行事の時などは、積極的に動いて、みんなの助け合いができると思います。今はコロナの関係で、いろいろな行事ができたりできなかったりしています。中学最後なので、行事がなくなってしまうこともあるかと考える心配ですが、行けることを楽しみにしています。

中三の私たちに残された時間は、もう半ぐらいしかありません。でも、私たちは、一日一日を大切に過ごしています。普通の一日ですが、すごく充実した生活を、クラスの中で送っていると思います。私たちのクラスは、本当にまじめで、いい人たちばかりです。まだまだ、ダメなところはありますが、一人ひとりがみんな、変わろうとしています。コロナのことがあったり、これから高校受験に向けて、勉強も大変だったりすると思いますが、みんなで助け合って頑張っていけます。



今号は、飯田裕美先生にお話を伺いました。

本校とのつながりは長いそうですね。

「大学の恩師の紹介から本校を知り、家庭科の講師として着任しました。当時は、公立の支援学級でも講師として勤務し、同時に二つの学校を経験したことは貴重でした。支援学級の子ども達も魅力的で、その成長が間近でしつかり見えることに、やりがいを感じていましたね。その間、かなり長い年月ですが、年数は秘密です(笑)。勤務の傍ら、小学校の教員免許を取得し、近年、特別支援学校の免許も取得しました。

——仕事に学修に子育て、パワフルですね。

「とにかく学校が好き！ ステパノっ子が大好き！ という気持ちでいます。うちの子ども達は、本当に素直で純粋、ひたむきです。手を抜くことを知らない必死な姿が素敵で、一緒にいることがとても楽しいのです。特に、クリスマス祝会や運動会など行事が最高に楽しくて好きですね。サマーキャンプは、出発前の子ども達の顔と、帰ってきた時のやりきった顔の表情が全く違うので、その姿に感極まってしまうこともあります(笑)。家庭での子育てのパワーの源も、ステパノですね。出産と子育てのため家庭に専念していた期間に

も、いつかまたステパノで働きたいと思い続け、復帰が叶った数年後には専任教諭となり、今、幸せです。

また、先生方はそれぞれに个性的で教育観も様々ですが、見つめている方向性は皆同じで、年齢に関係なく、真直ぐに話ができることが大きな魅力です。授業や行事についての個人的な相談にも、熱心に考えて協力してください。制約の多いコロナ禍においても、何かできることをしようという熱意が強く感じられ、働く環境として最高だと思います。

——調理実習は、教科書を離れて児童が自由に好きな献立を企画することも多いのですね。「将来の自立に向けて、いろいろなものを食べて知り、自分で楽しく調理ができるようになって欲しい」と思っています。そして、お互いを良く知り、協力し合うことの大切さを伝えたいと考えています。コロナ禍以前、本校では家庭科以外にも調理の機会が多い伝統で、中学校では定期テスト最終日に屋外炊事で鍋や焼きそば等たくさん楽しみました。私の学生時代は、特に強い個性のない普通の子どもでしたが、勉強中心の学校生活の中で無意識的に抑圧されていた一面が、今、本校で解放たれて楽しんでいるのかもしれないですね」

お話を伺う間、何度も口にされた「うちの子ども達」という言葉は、愛情深い飯田先生の心を見事に表し、児童・生徒と先生という関係性の垣根を越えて、大きな家族としての本校の在り方を改めて感じました。

STEPHEN'S NEWS

【表彰】

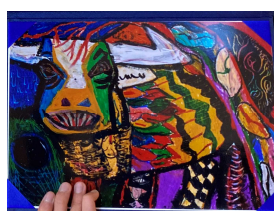
◎日本漢字能力検定

9級 小2 T・Y
5級 小5 S・P
中1 O・T

◎第21回 神奈川ビエンナーレ

レ国際児童画展 特別賞
独立行政法人国際交流
基金理事長賞

中3 F・Y



【編集後記】

まだまだ暑い日々が続いています。連日真夏を記録している地域もあるとか…。でもステパノでは、時折り避暑地大磯らしく爽やかな風が子ども達の間を吹き抜け、秋を感じさせてくれています。(え)

代表者 学園長 小川 正夫

発行者 聖ステパノ学園小学校・中学校

ステパノだより編集委員会

〒225-0003 神奈川県中郡大磯町大磯868

TEL 0463・61・1298
FAX 0463・61・9739

<http://www.stephen-oiso.ed.jp>

二〇二一年十月十五日(金)発行 第258号